

学校のパターン別の検証について

■パターン1

小中学校6校存続

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
小学校	有田小学校	審 議 会	検 討 会 / 説 明 会	有田小学校										
	有田中部小学校			大規模改修等を行い、有田中部小学校を存続										
	曲川小学校			建替えまたは長寿命化改修で、曲川小学校を存続										
	大山小学校			建替えまたは長寿命化改修で、大山小学校を存続										
中学校	有田中学校			大規模改修または建替えで、有田中学校を存続										
	西有田中学校			建替えで、西有田中学校を存続										

【メリット】

- ・現状と変わらない校区で通学できる。

【課題】

- ・小学校と中学校の小規模化がすすむ。3小学校、1学年1学級となりクラス替えができない。
- ・施設の建設と大規模改修工事に多額の費用がかかる。
- ・少子化で児童生徒が減少するが、現状と同様の維持管理費(ランニングコスト)がかかり続ける。

【課題への対応】

- ・小学校は、交流会やICT等を利用するなど学校で授業の工夫をする。
- ・ランニングコストを抑えるために、各学校を小規模にする。

【概算の経費】 129億800万円 (本体工事費: 118億3,400万円)

■パターン2

義務教育学校または小中一貫校

① 6校全てを義務教育学校または小中一貫校に統合する。

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
小学校	有田小学校	審 議 会	検 討 会 / 説 明	調 査 ・ 設 計 ・ 工 事									義務教育学校 または 小中一貫校
	有田中部小学校												
	曲川小学校												
	大山小学校												
中学校	有田中学校												
	西有田中学校												

【メリット】

- ・小規模化の課題が解決する。(学級数の確保、教職員の配置、行事の活性化、部活動など)
- ・9年間で一貫した教育が行われる。
- ・施設の維持管理費が削減でき、学習面や支援などの充実に費用を充てることができる。

【課題】

- ・小学校と中学校の校区が広がって、通学距離が遠くなる生徒がでてくる。
- ・急に学校の規模が大きくなるので、環境に対応できない児童生徒がでてくる。
- ・いきなり町内全域の校区になり、地域コミュニティーが広くなり連携をとりにくい。
- ・比較的新しい学校(有田小と中部小)を廃校にすると国の承認がいる。原則、国庫返納が発生。
- ・敷地選定と土地の買収、道路整備に時間と費用を要する。

【課題への対応】

- ・中学校は遠距離通学の通学方法を検討する。(公共交通機関やスクールバスなどの検討)
- ・統合前に交流事業を行う。
- ・別室支援やスクールカウンセラーなどの充実を図る。
- ・コミュニティースクールの活用を充実させる。(学校と地域、保護者。町の連携)

【概算の経費】 89億5,100万円 (本体工事費: 81億7,500万円)

② 西地区の小中学校を義務教育学校等に統合する。

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17		
東地区	有田小学校	審 議 会	検 討 会 / 説 明	有田小学校											
	有田中部小学校			有田中部小学校											
	有田中学校			有田中学校											
西地区	曲川小学校			調 査 ・ 設 計 ・ 工 事 ※仮設校舎		義務教育学校 または 小中一貫校									
	大山小学校														
	西有田中学校														

【課題】

- ・町内で、東地区と西地区の教育環境が異なる。
- ・中学校の小規模化がすすむ。
- ・小学校では、特に有田小学校の小規模化が進む。

【課題への対応】

- ・有田小学校は、特認校制度を利用して、特徴ある学校づくりを目指す。

【概算の経費】 117億1,400万円 (本体工事費: 107億3,200万円)

■パターン3

小学校4校はそのまま存続し、中学校2校を統合する。

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	
小学校	有田小学校	審議会	検討会 ／ 説明会	有田小学校										
	有田中部小学校			大規模改修等を行い、有田中部小学校を存続										
小学校	曲川小学校			建替え又は長寿命化改修で、曲川小学校を存続										
	大山小学校			建替え又は長寿命化改修で、大山小学校を存続										
中学校	有田中学校			調査・設計・工事	統合中学校									
	西有田中学校													

【メリット】

- ・中学生の小規模化の課題が解決する。(学級数の確保、教職員の配置、行事の活性化、部活動など)
- ・中学校は、学年別や教科別で学習指導や生徒指導等についての相談や研究が行いやすい。
- ・小学校においては、現状と変わらない校区で通学できる。

【課題】

- ・小学校の小規模化がすすむ。曲川小学校と大山小学校の改築が必要になる。
- ・統合する中学校の場所の選定。
- ・中学校の校区が広くなり、通学距離が遠くなる生徒がでてくる。
- ・4小学校から中学校に入学するので、中一ギャップを感じる生徒がでてくる。
- ・地域コミュニティが広くなり、連携をとりにくい。

【課題への対応】

- ・小学校は、交流会やICT等を利用するなど学校で授業の工夫をする。
- ・校区の中心辺りの土地で検討する。
- ・中学校は、遠距離通学の通学方法を検討する。(公共交通機関やスクールバスなどの検討)
- ・中一ギャップ解消のための対策を行う。(別室支援やスクールカウンセラーなど人的支援の充実)
- ・コミュニティースクールの活用を充実させる。(学校と地域、保護者、町の連携)

【概算の経費】 92億5,200万円 (本体工事費: 84億6,600万円)

■パターン4

①中学校2校を統合し、西地区の小学校2校を統合する。

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17		
東)小	有田小学校	審 議 会	検 討 会 / 説 明	有田小学校												
	有田中部小学校			有田中部小学校												
西)小	曲川小学校									調査・設計・工事		統合小学校				
	大山小学校															
中学校	有田中学校							調査・設計・工事		統合中学校						
	西有田中学校															

【メリット】

- ・小規模化の課題が解決する。(学級数の確保、教職員の配置、行事の活性化、部活動) ※有田小以外
- ・特に老朽化が進む4つの学校において、建て替わり、町内の教育環境の均衡が図れる。
- ・施設の維持管理費が削減でき、学習面や支援などの充実に費用を充てることができる。

【課題】

- ・通学距離が遠くなる生徒がでてくる。
- ・急に学校の規模が大きくなるので、環境に対応できない児童生徒がでてくる。
- ・地域コミュニティが広くなり連携をとりにくい。
- ・有田小学校の小規模化が進む。

【課題への対応】

- ・中学校は遠距離通学の通学方法を検討する。(公共交通機関やスクールバスなどの検討)
- ・別室やスクールカウンセラーなどの充実を図り、困り感のある児童生徒の支援を充実する。
- ・コミュニティースクールの活動を充実させる。(学校と地域、保護者、町の連携)
- ・有田小学校は、特認校制度を利用して、特徴ある学校づくりを目指す。

【概算の経費】 81億6,800万円 (本体工事費: 74億6,800万円)

②パターン4から、将来的には東地区を統合するシミュレーション。

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17		
東)小	有田小学校	審 議 会	検 討 会 / 説 明	有田小学校												
	有田中部小学校			有田中部小学校												
西)小	曲川小学校									調査・設計・工事		統合小学校				
	大山小学校															
中学校	有田中学校							調査・設計・工事		統合中学校						
	西有田中学校															

→
条件を付けて
統合を検討

【メリット】

- ・旧町の地域コミュニティが引き継がれる。

【課題】

- ・通学距離が遠くなる生徒がでてくる。
- ・急に学校の規模が大きくなるので、環境に対応できない児童生徒がでてくる。
- ・

【課題への対応】

- ・遠距離通学の通学方法を検討する。(公共交通機関やスクールバスなどの検討)
- ・別室やスクールカウンセラーなどの充実を図り、困り感のある児童生徒の支援を充実する。
- ・